

ウラボシ科 ノキシノブ属

ノキシノブ (軒忍)

Lepisorus thunbergianus (Kaulf.) Ching

自生環境

古木の幹、岩場、石垣 など

原産地

日本在来

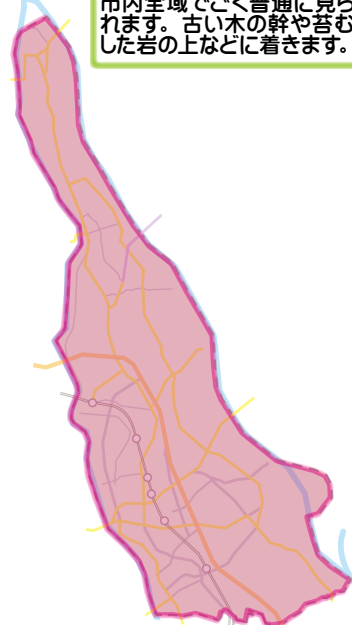
生育を脅かす要因



普通に見られるシダ植物ですが、ノキシノブの好む古木は、伐採の対象にされやすい傾向があります。また都市化によって空中湿度が下がると、葉が傷んで衰弱する原因になります。

市内の分布状況

市内全域でごく普通に見られます。古い木の幹や苔むした岩の上などに着きます。



特徴

- ☆ やや湿った場所にごく普通に見られる常緑の多年草です。名前に軒とあるのは、かつては民家の軒先などによく生えたことからきていますが、住宅事情が変わった現在は軒先ではまず見かけなくなりました。今は、コケや地衣類が多く生えていて湿っているような木の幹や岩壁などでよく見かけます。
- ☆ 根茎は 3mm ほどで、幹などについて横に這うようにのびていきます。葉は先がとがった線形で、長さは 10 ~ 30cm、幅は 5 ~ 10mm ほどです。
- ☆ シダ植物なので花は咲かずに種子もできません。代わりに、葉の裏に胞子嚢ができて、そこから胞子を飛ばして増えています。いくつもの「丸く集まった胞子嚢」が、2列に並んでつきます。これを目に見立てた、ヤツメランという別名もあります。

樹木に悪さはしない

ノキシノブは幹によくつくため、「木に影響はないのか？」という質問をよくいただきます。答えから先に言うと、「木には影響ないのでそのまま大丈夫」です。ノキシノブのような植物を着生植物と言い、単に根をおろす場所を借りているだけです。もちろん木から水や養分を横取りすることはなく、すべて自力で確保しています。シダ植物には、着生植物の性質をもつものが結構多く見られます。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

